

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 7 年 3 月 6 日
②法人・団体名	とらいさぽーと		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒569-0805 高槻市上田辺町		
④責任者氏名	三宅孝子	(役職名等)	代表
⑤担当者氏名	同上	(役職名等)	

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-012	⑦助成金額	30 万円	⑧申請カテゴリー	B
⑨奨学活動名	発達障害児者に必要な個別学習や余暇支援を年間を通じて行う活動				
⑩主な実施場所 名・及びその住所	高槻市上田辺町 6-23 上田辺薩摩ビル 301 号室				

⑪活動内容とその成果の概要

発達障害児者支援として、発達特性に応じた個別学習や余暇活動を、継続的に実施しました。
主に、SST や LST 学習、ヨガやアロマによる体調管理、調理などのレクリエーション活動を、個別ニーズに沿って子どもの個性や特性を尊重しながら、複数の専門スタッフで取り組みました。
毎月定期的に支援活動を行うことで子どもたちの状態把握ができ、精神面や体調の変化に対応していくことができたと思っています。
長い信頼関係を通して保護者との連携ができているのも、大きな成果だと捉えています。

⑫奨学活動の定量的把握

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	0			
高校生等	19	1,2 時間	23	7 月から 3 月まで、月 2 回実施
大学生等	26	1,2 時間	31	7 月から 3 月まで、月 2 回実施
学習支援員等	78	3 時間	234	7 月から 3 月まで、月 4 回支援実施
その他	28	1,2 時間	34	7 月から 3 月まで、月 1~2 回実施
合 計				

マンツーマン指導のため支援員の活動量は多くなっています。
活動量で見ると、高校生よりも大学生やその他（就労している青年、就労活動の成人）のほうが多くなっています。社会人としての一般知識や対人関係の学習、また体調管理や余暇にかかった数値として活動量に表れていると考えられます。

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：発達障害児者に必要な個別学習や余暇支援を年間を通じて行う活動

法人・団体名：とらいさぽーと

作成者 氏名：三宅孝子 代表

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

生徒の発達特性から生じる様々な課題に対処していくには、一人ひとりに応じた学習・体調管理・余暇活動ができる支援環境が必要です。長年特別支援教育に携わってきた専門スタッフと ASD スペクトラム支援士は、生徒が自分らしさを発信できるよう、環境を整え支援活動を実施してきました。

取り組む課題についてはそれぞれの家庭内の優先課題や状況を踏まえて、義務教育後の方向を考えていく必要があります。そのため学習や保護者面談の中で進路選択の幅を広げて考えられるよう、様々な事例を紹介し情報共有していくことに努めました。

2. 実施した奨学活動の詳細

日程	活動内容	支援員	学生・他・(保護者)	精細
7 月 5 日	前期 (7 月～9 月) 学習支援・調理余暇	2	1 高・1 他	SST・LST・チヂミ作り
7 月 10 日	学習支援	2	1 大	SST・LST
7 月 18 日	音楽余暇	1	1 他	音楽療法
7 月 19 日	学習支援・体調管理支援	2	1 高・1 他	SST・LST・ヨガアロマ
7 月 24 日	学習支援・調理余暇	2	2 大	SST・LST・チヂミ作り
			計 8 名	
8 月 2 日		1	(1 保)	活動振り返り・年間支援計画
8 月 9 日	学習支援・調理余暇	2	1 高・1 大・1 他	SST・LST・手羽唐揚げ
8 月 12 日	学習支援	1	1 他	SST・LST
8 月 23 日	学習支援・体調管理支援	2	1 高・1 他	SST・LST・ヨガアロマ
8 月 28 日	学習支援・調理余暇	2	2 大	SST・LST・手羽唐揚げ
8 月 29 日	音楽余暇	1	1 他	音楽療法
			計 9 名	
9 月 6 日	学習支援・調理余暇	2	1 高・1 他	SST・LST・餃子
9 月 11 日	学習支援	2	1 大	SST・LST
9 月 18 日	学習支援・調理余暇	2	2 大	SST・LST・餃子
9 月 19 日	音楽余暇	1	1 他	音楽療法
9 月 27 日	学習支援・体調管理支援	2	1 高・1 他	SST・LST・ヨガアロマ
			計 8 名	

10月3日	後期（10月～3月） 学習支援・調理余暇	2	1高・1他	SST・LST・ハロウィンケーキ
10月9日	保護者面談	1	(1保)	前期振り返り・後期支援目標
10月15日	学習支援・調理余暇	2	2大	SST・LST・ハロウィンケーキ
10月17日	学習支援・体調管理支援	2	1高・2他	SST・LST・ヨガアロマ
10月29日	学習支援	2	1大	SST・LST
			計9名	
11月5日	学習支援	2	1大	SST・LST
11月7日	学習支援	2	1高・1他	SST・LST
11月19日	学習支援・調理余暇	2	1高・1大	SST・LST・焼きそば
11月21日	学習支援・調理余暇 体調管理支援	2	1高・2他	SST・LST・焼きそば
			計8名	
12月3日	学習支援	2	1大	SST・LST
12月5日	学習支援・調理余暇	2	1高・1他	SST・LST・Xmas チキン
12月17日	学習支援・調理余暇	2	1大	SST・LST・Xmas チキン
12月19日	学習支援・体調管理支援	2	1高・2他	SST・LST・ヨガアロマ
12月23日	学習支援・調理余暇	2	1大	SST・LST・Xmas チキン
			計8名	
1月16日	学習支援・調理余暇	2	1高・1他	SST・LST・ピザ
1月21日	学習支援・調理余暇	2	1大	SST・LST・ピザ
1月23日	学習支援・体調管理支援	3	1高・1大・2他	SST・LST・ヨガアロマ
			計7名	
2月4日	学習支援・調理余暇	2	2大	SST・LST・バレンタイン菓子
2月13日	学習支援・調理余暇	2	1高・1他	SST・LST バレンタイン菓子
2月18日	学習支援	2	2大	SST・LST
2月20日	学習支援・体調管理支援	2	1高・2他	SST・LST ・ヨガアロマ
			計9名	
3月4日	学習支援	2	1大	SST・LST
3月6日	学習支援・調理余暇	2	1高・1他	SST・LST・焼肉弁当
3月13日	学習支援・体調管理支援	2	1高・2他	SST・LST・ヨガアロマ
3月18日	学習支援・調理余暇	2	2大	SST・LST・焼肉弁当
以降	保護者面談予定	1	(保4)	後期振り返り・次年度支援目標
			計9名	

〈学習支援〉「自立課題」「SST/LST」



「自立課題」では、生徒の特性を活かして発揮できるように設定をします。学校卒業後の就労や生活で、自律（自分でできることは自分でする、できないことは支援を求める）した社会行動ができる大人になることを狙いとして課題設定をしました。

「SST/LST」では、それぞれの生徒が持つ個性や能力を社会人として発揮するにはどのような方策があるのか、自己認知（自己理解や他者理解）の学習から、情報整理をしていきました。

〈体調管理支援〉



まわりのあらゆる刺激に神経を使い気を休めることができない生徒にとって、ヨガやアロマを用いた五感を意識する施術は、リラックス効果がありストレスを和らげることに繋がります。そのため体調管理の支援として、継続的に取り入れてきました。

〈調理余暇支援〉



様々な食材や調理器具を使い、手順を確認しながら自分でやり遂げる調理作業は、楽しみでもあり自己肯定感を育むことにもなるため、継続して取り組みました。

・参加人数

	延べ人数	
学習支援	73 名	高校生等 19・大学生等 26・その他 28
体調管理支援	28 名	高校生等 9・大学生等 1・その他 18
調理余暇支援	34 名	高校生等 9・大学生等 16・その他 9

- ・周知方法と協力関係者について
- ・地域やボランティア活動との連携

4 月、高槻市「子育て支援団体」のメンバーとして冊子「子育てお助け book」に掲載

7 月、HP にて檜の芽会助成金事業活動について報告

市公益サポートセンターへ夏季体験学習会のチラシ掲載依頼と配布

以後、とらいさぽーと HP ブログにて活動の様子を定期的に掲載

・学習支援員について

発達障害支援には、ASD や ADHD の特性理解から、知的障害や身体障害、精神障害、他、様々な障壁についての知識と実践経験が必要になります。

「とらいさぽーと」は長年教育現場での発達が気になる子どもの支援に携わってきた教師 2 名と ASD スペクトラム支援士 1 名で活動を継続してきました。

私たちは支援に携わるスタッフとして、生徒の支援について保護者との共有理解に努めること、其々の支援スタッフと情報共有をしながら総合的に生徒の支援に関わること、そして何よりも生徒自らの発信に耳を傾けることを大切に、学習支援を実施してきました。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性

生徒一人一人の発達特性に沿った個別支援を、伴走型就学支援で継続的に実施することができました。子どもや保護者の方々にとって、家庭や学校とは異なる地域での前向きな居場所の一になっていると認識しています。

しかし、このような支援の在り方が神経発達症の特性を持つ子どもたちの成長にどれほど沿ったものであるのかを一般的に周知してもらうことは難しいと感じています。

当教室はデイサービスのように送迎があるわけでも長い滞在ができるわけでもなく、受験のための学習塾でもありません。月に 2 回ほどの短い支援時間に毎月会費を払いながら通わせる教室に価値を見出して貰うのは難しいのかもしれません。

今後への発展性として、これまで積み上げてきた支援活動が単なる居場所ではなく、前向きに社会に足を踏み出していくための活力となっていることを、着実に歩みを進めている彼らの成長を通して実践報告できることに希望を見出しています。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想

何らかの生きづらさを抱えた子どもたちは、社会で自立できる大人になってほしいと願うご家族の思いや応援を受けながら、学校生活を送っています。

しかし、子どもの居場所が学校以外に見いだせないことが、かえって子どもや家族にとって大きなストレスとなっているように思えます。日常に振り回されるのではなく義務教育後の社会に目を向けること、まわりに合わせることも大事だけど自分を輝かせることのほうがもっと大事、私たちはその思いを大切にこれからも彼らを応援していきます。